

このページでは要点だけをお知らせしています。
詳細は配布案内や本紙PDFを開くか、ホームページをご覧ください。

ホームページのURLは <http://www012.upp.so-net.ne.jp/tamtam/> です。

このニュースはEメールで配信されています。府養研ニュースは各種案内等の事務連絡と一緒に、毎月第1月曜日にEメールで配布されています。第1月曜が祝日であれば火曜日発行になります。来月11月号は、11月4日(火)発行です。一部メール網がまだ整備中もしくは検討中の市町村は、郵送または遅送されています。

平成15年10月6日発行 大阪府養護教育研究会(広報部)

事務局 堺市立茶山台小学校 会長 本郷 くみ 〒590-0115 堺市茶山台2-5-1

問い合わせ・意見はMaiで 本部役員宛fuyouken-owner@egroups.co.jp

研修・行事の報告	別紙にくわしい報告があります。
施設見学研修報告	戦後の福祉の原点ともいえる滋賀県立近江学園と、特別支援教育の最前線をいく甲西町発達支援センターを見学しました。各施設長さんからのお話や実際に見学しての感想をまとめて報告します。
ダダ父さん講演会報告	自閉症のためにできること - 人権とコミュニケーション - 207人の参加で大盛況でした。 アンケートの感想を紹介します。

研修会のご案内	別紙案内をご覧ください。締め切りあり。申し込み要。
テーマ別研修会	行動に様々な問題を示す子どもたちの理解と援助 Q & A 12月25日 午後2時～4時半 八尾プリズムホール
ICT活用に関する研究会のご案内	マウスのクリックをスイッチにかえてみませんか 11月28日(金) 午後3時～5時 枚方市立第二中学校
再掲載分	養護教育におけるコンピューター活用 10月21日(火) 午後2時～5時 大阪府立茨木養護養護学校

各部からのお知らせ

行事部

アンケートお願い 府教育委員会事務局障害教育課との懇談会に向けて、以下の「最終報告」への意見をお願いします。アンケート用紙は別途配布済みです。

「今後の特別支援教育の在り方について(最終報告)」

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/018/toushin/030301.htm

広報部

50周年記念CD-ROM配布(別紙)

昨年度の研究紀要を兼ねています。各支部論文、報告、ニュースバックナンバー

マルチメディアソフト「くるくるクリック」添付 くるくるクリック説明書(別紙)

研究部

研究会紹介

和泉LD・ADHD研究会発足(別紙)

情報提供

自閉症コーナー

手のひらVOCA発表される(PDA活用)(別紙)

行事部主催 施設見学研修報告

今年度の施設見学研修は、晴天に恵まれた 8 月 25 日に行われ、戦後の福祉の原点ともいえる滋賀県立近江学園と、特別支援教育の最前線をいく甲西町発達支援センターを見学しました。どちらの施設も驚きと感動の連続で、参加された先生方にとっては有意義な研修となったことと思います。

紙面で十分お伝えすることができませんが、各施設長さんからのお話や実際に見学しての感想をまとめて報告します。

滋賀県立近江学園

近江学園は昭和 21 年に大津市に糸賀一雄氏らによって創立され、昭和 23 年に「児童福祉法」の施行に伴い、県立の児童福祉施設になりました。糸賀氏は「この子を世の光に」と人々に語りかけ、池田太郎氏、田村一二氏とともに知的障害児・者の療育に力をそそぎました。学園は昭和 46 年に現在の場所、石部町に移転し、現在に至っています。学園の周りは緑が豊かで、敷地も広々としていました。



現在の入所数は 95 名で、うち隣接している三雲養護学校や町内の小中学校に通う学籍児童は 64 名、二十歳以上の人は 9 名います。障害の程度は、最重度・重度が 55%、中軽度が 45% となっています。学園の三本柱として「生活・教育・生産」を掲げ、生産 = 働くこと、を大切にしながら様々な場で実践しています。

中学部や中学校を卒業後の進路の一つとして、学園内に 3 年制の作業科がつくられており、木工科・窯業科・農業リサイクル科に分かれて、計 29 人の人が働いています。

木工科では、木を乾かして皮をはいで製材することから取り組んでいるとのこと。木工科と窯業科の仕事場と作品を見せていただきましたが、その専門性と作品の素晴らしさに、多くの先生方が感嘆の声をあげていました。

また、施設の役割として地域と関わりを持ち貢献していくという考えの基、県下の養護学校中学部・中学校養護学級の生徒の体験入所や、障害児の保護者の子育て支援として「近江学園ひろば」という懇談・学習の場を設けて

います。体験入所は昨年度 25 校・81 名の参加があり、生徒と担当者が寝食をともにして働く経験をしました。どちらも現場どうしの話し合いの基で独自に作り上げた制度であり、大阪でもこのような取り組みがあれば・・・という参加者の声も聞かれました。



甲西町発達支援センター

甲西町は人口 4.3.000 人の町で、町をあげての障害児・者の支援システムづくりを行っています。町の方針として決定するまでには、支援センターの母体である「ことばの教室」の実践と、障害児の親の会連合による、「支援センター設立と IEP (個別の指導計画) 実現要求運動」で集めた 13.0

00 名もの署名が大きな推進力になったとのこと。支援センターは三雲小学校の敷地内にあり、丸い窓が印象的な、明るく開放感がある建物でした。同じ棟の中に、通級の施設である「ことばの教室」と、三雲小学校の養護学級の教室があります。

甲西町の発達支援システムは、教育と福祉と保健の壁を破り、特別な支援を必要とする子どもたちに対して発達相談から学齢期・就労の段階までの支援を行います。その柱として各園や療育教室、小・中学校、養護学校において、IEP および ITP(個別移行計画)を作成・蓄積し、有効に活用することを目指しています。

役所内の発達支援室をイントラネットサーバーとして、IT ネットワークを立ち上げ、教育委員会をはじめ発達支援センター、幼稚園・保育所(計 11 校)、小学校(7 校)、中学校(3 校)、養護学校(1 校・まもなくつながること)が互いにつながっています。このネットワークによって各園や各校での指導に関する情報交換を行うことができ、ことばの教室に通っている幼児、児童生徒



計 100 人分の IEP も保護者の了解を得て打ち込んであります。この内容については、プライバシー保護の為その年度の担当者と保護者のみがパスワードを使って見る事ができます。月に一回は各担当者が子どもについての情報を入れることになっているので、個人の指導記録が年々増え、担当者の引継ぎの際には、資料として役立つとのこと。また、ことばの教室のワークシートから最新医療の情報まで、このネットを使えば何でも手に入れることができるのです。



IEP の形式は支援センターが提案し、現場で使いやすいように手を加えていきたいとお話でした。保育所や幼稚園の用紙はかわいいカットの入ったカラー版で、親しみが持てる様に工夫されています。また、IEP の研修会を年 5 回開き職員の理解と力量を深めると共に、センターの職員が各校を巡回して相談に応じるなど、きめ細かな取り組み行われていました。

今後の課題としては、障害者の就労に対して町内の各機関が連携するシステムの構築と運営だとのことでした。

最後にセンター所長より、「特別支援教育とは 6.3% といわれる支援の必要な子どもたちに合わせて教育を変えていくであり、目の前にいる子どもたちにどのような教育をしていくか、教師一人ひとりの問題として考えてほしい」という熱のこもったお話があり、我々の大きな課題として心に残りました。また、町という自治体が、障害者の乳幼児期から就労までのきちんとしたビジョンを持ち、意欲的に実行していることが良くわかり、驚きと羨望の思いでした。大阪でも、各市町村のしっかりとしたビジョンの基で、きめ細やかな支援教育が早急に進められることを願いつつ、滋賀県を後にしました。



以上

教育講演会 自閉症児のためにできること

人権とコミュニケーション

講師 大阪大学大学院教授 奥平 俊六@ダダ父

9月3日(水)、昨年度に引き続き、ダダ父さんと大阪大学大学院教授 奥平俊六先生の講演会が大阪府教育センター大ホールにておこなわれました。前回同様の大好評で、参加者は207名でした。



以下に参加者の感想をいくつかあげさせていただきます。

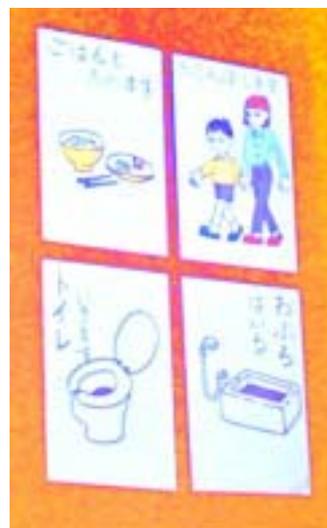
- ・本当に障害児たちは自己決定の場を与えてもらっているのだろうか?と日頃から気になっていました。講演のおかげで自分がやろうとしていたことが間違っていなかったと確信できました。
- ・本人からの選択・拒否がどれほど大事なのかよくわかりました。こちらからのさせたい事を考えるのではなく、常に本人の立場を考える事、大切にしていきたいです。

・自閉症の人の立場で、より良い支援について考え、工夫しつづけている様子、そして、それを周りに広げている様子がとてもよく伝わってきました。まず、自分もやり始めようと思いました。

・視覚支援 子供本人が楽な様に、好きな事につながる様に!基本として考えていきたいです。

・「便利な人」についてのお話がよく胸におちました。教師であろうとする自分がよい援助者と反対の行動をしていたことに気づきました。

他にも多数感想をいただきました。



本当に実践に生かせる話、元気が出る話でした。奥平先生のホームページは「ダダ父通信」
<http://www.nucl.nagoya-u.ac.jp/~taco/dada/>
です。

平成15年10月1日

各学校長 様
障害教育担当者 様

大阪府養護教育研究会
会 長 本郷 くみ

府養研 テーマ別 研修会

『行動に様々な問題を示す子どもたちの理解と援助 Q&A』

府下の障害教育に関わる先生方から、日頃の指導に関わる疑問や悩みを相談できる機会がほしいとのご希望をお聞きしておりました。

昨年は府養研50周年記念大会の中で、今日的な課題についての分科会を設定しましたが、今年度は新しいテーマも加えて、一昨年度に引き続き『テーマ別研修会』を計画致しました。

助言の先生方のお話をお聞きしながら、日頃悩んだり困ったりしていることを出し合いたいと思います。養護学級担任の先生方だけでなく、通常の学級の先生方も、是非ご参加下さいますよう、ご案内致します。

1. 日 時 平成15年12月25日(木)午後2時～4時30分
(受付 午後1時30分より)

2. 場 所 八尾市文化会館(プリズムホール)
八尾市光町2丁目40番地 (0729-24-5111)
近鉄大阪線八尾駅下車 徒歩5分
(上本町駅より準急約15分)

3. 申込先 テーマ別に各分科会担当者まで、
FAXでお申し込み下さい。
ただし、質問がある方は封書にてお送り下さい。

4. 締め切り 11月28日(金)

研修会場には、駐車スペースがありませんので、公共交通機関をご利用下さい。

【申込み・問い合わせ先】

分科会	学 校 名	担当者	住 所	FAX番号
第1分科会	枚方市立 川越小学校	関 紀子	〒573-0081 枚方市釈尊寺町30-1	072-854-0524
第2分科会	貝塚市立 第一中学校	出羽加代子	〒597-0071 貝塚市加神1-5-1	0724-22-1271
第3分科会	堺市立 英彰小学校	大村葉子	〒590-0961 堺市寺地町西4-1-1	072-221-8667
第4分科会	藤井寺市立 道明寺中学校	細井孝昭	〒583-0007 藤井寺市林6-2-21	0729-38-6985
第5分科会	吹田市立 高野台小学校	馬場頼子	〒565-0861 吹田市高野台2-16-1	06-6871-0545
第6分科会	八尾市立 安中小学校	土井徳生	〒581-0086 八尾市陽光園2-7-33	0729-92-1974

各分科会のテーマと助言の先生方

第 1 分科会	A D H Dといわれる子どもたちの理解と対応
A D H Dと言われている子どもとは、どのような特徴の子どもたちのことをいうのか等について、その概論も兼ねて相談があれば。 助言 関西医科大学附属香里病院 小児科部長 安原昭博 先生	
第 2 分科会	L Dと言われる子どもたちの理解と対応
主に通常学級の中でのL Dと言われている子どもたちに対して、どのように理解し対応していけばよいのかなどについて相談があれば。 助言 堺市立向丘小学校 教諭 米田和子 先生	
第 3 分科会	行動障害（問題行動）を示す子どもたちの理解と対応
その行動のとらえ方を中心とした質疑応答。生活の中での様々な理解しにくい行動をどう捉えて、指導をすすめればよいのか。 助言 兵庫教育大学 助教授 井上雅彦 先生	
第 4 分科会	自閉傾向を示す子どもたちの理解と対応
自閉といわれる子どもたちの特性と理解、および指導のあり方について。 助言 百舌鳥養護学校 教諭 金井孝明 先生	
第 5 分科会	肢体不自由の子どもたちの理解と対応
肢体不自由の子どもたちの示す特性と理解、および指導のあり方について。 助言 みどりヶ丘病院 理学療法士 淡路一裕 先生	
第 6 分科会	性に関する課題のある子どもたちの理解と対応
発達に障害のある思春期の子どもたちの性的な悩みについての理解と、実際の指導について。 助言 大阪知的障害者育成会地域支援担当 中村昭代 先生 日本自閉症協会大阪支部 大橋一予 先生	

----- 切り取り線 -----

府養研テーマ別研修会 参加申込と質問内容

宛 先	第 () 分科会担当	市立	学校	先生 宛
参加者氏名				
所 属 校	市立		学校	
連 絡 先	TEL	FAX		
<p>以下は質問のある方のみお書き下さい。質問内容は、学年・組・性別・障害状況・問題となる行動などを、簡潔・具体的にお書き下さい。この欄に記入された方は、個人情報保護の観点から、封書にて郵送して下さい。スペースが足りない場合は、適当な用紙をご利用下さい。</p>				

2003年10月6日

大阪府養護教育研究会会員様
北河内養護教育研究会会員様
枚方市養護教育研究会会員様

大阪府養護教育研究会
会長 本郷 くみ
北河内養護教育研究会
会長 柳本 光久
枚方市養護教育研究会
会長 角田 圭一

ICT活用に関する研究会のご案内 マウスのクリックをスイッチにかえてみませんか

大阪府養護教育研究会研究部 ICT活用プロジェクト、北河内養護教育研究会、枚方市養護教育研究会の共同開催で、ICT活用に関する研究会を下記要領で開催いたします。

ご多忙の時期とは存じますが、多数ご参加いただき、障害のある子どもたちの教育に活かさせていただければと思いますので、よろしくお願いたします。

記

- テーマ マウス改造講座
障害のある子どもに使いにくいマウスのクリックを、使いやすい大きな
スイッチに換えられるようにマウスを改造します
- 日時 2003年11月28日(金) 15:00~17:00
- 会場 枚方市立第二中学校 技術室
〒573-0085 枚方市香里園東之町 20 - 26 tel 072-832-3624
京阪「香里園」下車 北東へ徒歩 15分
京阪「香里園」下車 京阪バス1・9系統「香里ヶ丘」下車北へ10分
京阪「枚方市駅」下車 京阪バス1・9A系統「香里ヶ丘」下車北へ10分
- 講師 大峠 貴弘 先生 (大阪府立茨木養護学校教諭)
- 内容 1) 改造マウス使用アイデア
2) マウス改造実習
- 参加費 無料。ただし、材料費実費(1100円程度)
- 申し込み 11月20日までに、下記に e-mail または Fax にて連絡ください。
材料の準備の都合がありますので、よろしくお願いたします。
- 申込先 田村 真一 (高槻市立養護学校) Tel 072・681-7910
Fax 072・681-7922 e-mail tamura@fb3.so-net.ne.jp
- 備考 会場までは公共交通機関のご利用をお願いたします。
会場までの道順等は、地図や地図検索サイト等でお調べください。

2003年9月8日

大阪府養護教育研究会会員様
大阪養護教育コンピュータ研究会会員様

大阪府養護教育研究会
会長 本郷 ぐみ
府養研 ICT 活用プロジェクト
事務局 田村 真一
大阪養護教育コンピュータ研究会
会長 宮西 重久

養護教育におけるコンピュータ活用の実際

大阪府養護教育研究会研究部 ICT 活用プロジェクトと大阪養護教育コンピュータ研究会との共同開催で、ICT 活用に関する研究会を下記要領で開催いたします。

今回は、大阪府立茨木養護学校のご協力を得て、授業参観を含めた研究会を通して、養護教育におけるコンピュータ活用の実際について考えていきたいと思ひます、

ご多忙の時期とは存じますが、多数ご参加いただき、障害のある子どもたちの教育に活かさせていただければと思ひますので、よろしくお願ひいたします。

記

- テーマ 養護教育におけるコンピュータ活用の実際
日時 2003年10月21日(火) 14:00~17:00
会場 大阪府立茨木養護学校会議室・コンピュータ室
〒567-0067 大阪府茨木市西福井4丁目5-5 tel 072-643-6951
学校 HP <http://www.osaka-c.ed.jp/ibaraki-y/>
講師 山本 一壽氏 (大阪府立茨木養護学校)
内容 14:00~14:15 茨木養護学校でのコンピュータ活用の概略
14:15~14:50 授業参観(国語の授業 重複障害)
15:00~17:00 取り組み・ソフト・入力機器などの説明
連絡先 田村 真一(高槻市立養護学校)
Tel 072・681-7910 e-mail tamura@fb3.so-net.ne.jp
備考 授業時間中の教室への出入りはできる限りお控えください
アクセスは学校 HP を参考に公共交通機関のご利用をお願いします。
なお、JR 茨木駅からの所要時間は、約 20 分です

50周年記念CD-ROM

昨年度の研究紀要をかねる記念誌がようやく発行され、各支部に配布されました。早い地域ではもう各校に届いているかもしれません。各支部からの論文と各支部の活動報告、府養研各部の活動報告等が収録されています。WindowsXP や Windows98 などが動くパソコンでホームページを閲覧するような感じで読むことができます。ページも大幅に増えています。論文等労作ですので、ぜひご覧ください。

くるくるクリックという生徒学習用のマルチメディアソフトも入っていますのでお試しください。(説明書添付)このソフトを再配布される場合は、教育センターに申請が必要です。申請書類はCDの中に収録されています。作者は金子由紀子先生です。

自閉症コーナー

ICT活用連続講座で、PDAにVOCAが載ったら、手のひらで使えていいねという意見がありましたが、そのものが販売されたようですので、以下に紹介します。

PDA対応のコミュニケーションエイド

世界初の「自閉症専用ハイテクコミュニケーションエイド」が

9月13～14日、自閉症カンファレンス NIPPON の企業ブースで展示されました。

「といくらふと」と、コンピュータプロミング会社「スリーテンコーポレーション」の共同開発です。搭載PDAは iPAQ Pocket PC h1937

PDA とのセット販売価格は 39800円(税・送料別)

アプリケーション(ソフト)の名前は「**あのね**」だそうです。

「くるくるクリック！」について

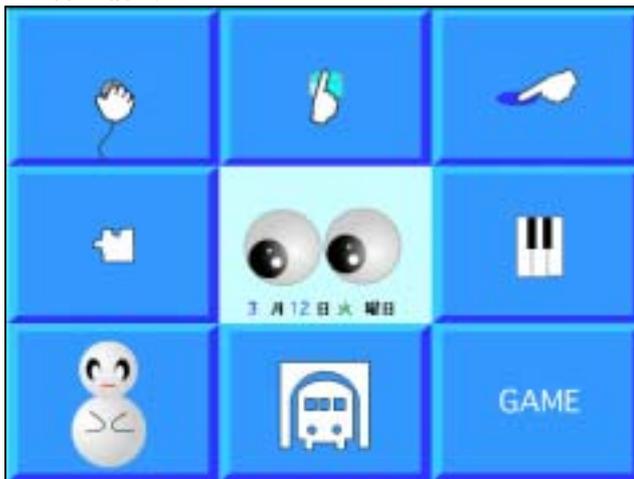
金子由紀子

自分のアクションで何かが動くおもしろさを大事にすることを心がけて作りました。自分ひとりで操作できる場所にポイントを置いていますが、実は画面を一緒に見ている友達、あるいは先生とコミュニケーションするのねらいのひとつです。パソコンを使うことで、生徒のやる気を引き出し、パソコンに対してだけではなく、人に対しても能動的に働きかける力を育むのを目的とした教材です。

* windows95では、記念誌の画面からでは、うまく動かないので、98以降でお使いください。
それでも動かない場合は、CD-ROM内のフォルダのstrat.exeをクリックしてお使いください。

1. 教材の構成

(単体は、ハイブリット版です。)



< 8つのメニューボタン >

A. くるくる

マウスを動かす、あるいは、マウスをクリックすることで、画面が変化するもの。

B. ボタン

画面上のボタンを押すことで、変化するもの。

C. ドラッグ

画面上の小物を押しながら引っ張って動かすもの。

D. ジグソーパズル

2ピース～36ピース。

近くにピースを持って行くピタッと台紙にはまる。

E. ピアノ

ピアノや鳥の声など違った音のドレミの鍵盤と動物の鳴き声。

F. 動く絵本

ボタンを押すと、次のページへ進む。音声無し。

G. 大阪市営地下鉄の路線図

路線ごとに駅と駅名を表示する。正誤あり 中央線 長田の読み 正「ながた」<誤「おさだ」

H. ゲーム

・もぐらたたきとカニとりゲーム。

・カードめくり。

・迷路。(キーで動きます。)

和泉LD・ADHD研究会発足

(和泉市教育委員会 後援)

和泉では、LD・ADHD及び周辺軽度発達障害の理解・臨床・支援のための研究会を目的とした「和泉LD・ADHD研究会」が9月1日に設立されました。

第1回設立総会と記念講演会には、講師に大阪医科大学LDセンターの竹田契一先生をお迎えし、「軽度発達障害の理解と指導～LD・ADHD高機能自閉症への関わり～」という演題でご講演いただきました。教育・医療・福祉・行政に携わる150人が集い、熱気あふれる研修会となりました。



第1回記念講演会 講師：竹田契一先生
(於：和泉コミュニティーセンター)

和泉LD・ADHD研究会 2003年度研究会計画

<p>第2回 講演会・・・11月8日(土) 13:00 受付 13:30～15:30 「ADHDの診断と医学的な治療」 講師 安原 昭博 先生(関西医科大学附属 香里病院 小児科)</p>	<p>安原先生は、関西医科大学附属香里病院でADHD児童の診断、治療に携わられています。和泉市教育研究所のADHD研究講座でも講師を勤められるなど、和泉市のADHD児に対する訪問型支援事業でもお世話になっています。</p>
<p>第3回 事例研究・・・12月12日(金) 18:00 受付 18:30～20:30 「みんなでいっしょに考えましょう」 講師 前瀬戸 公明 先生(西淀病院 小児科医長)</p>	<p>前瀬戸先生は小児科がご専門です。和泉保健所での療育相談をされています。和泉市障害教育支援委員会のメンバーです。「みなさんの事例を聞いて一緒に悩みましょう。」とおっしゃっています。</p>
<p>第4回 講演会・・・3月未定 18:00 受付 18:30～20:30 「子どもの意欲とコミュニケーションを育てるインリアルアプローチ」 講師 里見 恵子 先生(大阪府立大学 社会福祉学部)</p>	<p>里見先生は、大阪府立大学で教える傍ら、全国各地でご講演をされています。インリアルアプローチの倫理、実践研究の第一人者でもあります。幼児期を中心に、子どもの意欲とコミュニケーションを育てていくインリアルの考え方や方法についてお話していただきます。</p>

和泉LD・ADHD研究会入会のお誘い

是非、会員としてご参加頂けますようご案内申し上げます。

年会費は3,000円です。なお、当日の講演会のみ参加は1,000円です。

和泉LD・ADHD研究会事務局

〒594-0013 和泉市鶴山台 4-1-1

和泉市立鶴山台南小学校 TEL：0725-43-1717

代表 墨 美知子 FAX：0725-43-1761